

白 榊 粉 屋

おいとこそうだよ 香取、印旛、武射の郡こさけで

エンヤーホイ

音に聞えし 白榊村にて、木内の本家は

粉屋で御座る「一代 二代の、粉屋ぢや御座らぬ」

先祖の代から十代伝わる、粉屋の仁工門

そとや内には一人の娘が、むこ取り娘で

年は十六 おさよ と言うてな、きりよしの良いこと

卵に目鼻をつけたる様だよ、成程良い娘こだ

あの娘と添とようなら 三度に一度は、人の目忍しのんで

朝は早起き 水もくみましょ、おまんまも炊きましょ

備前の摺すりばちで さんしょの摺すりこぎで、ころり／＼と

お味噌も すりましょ手鍋も下げましょ、内の家風も

知らなきやならない御作法も知らなきや、むこにはなれない

そのや あいまに粉もひきましょ、おさよと二人で

石うす まわせば よい粉できます、よい粉できたなら

白木の粉箱にうんとこさつめてな、明日は粉売りと

仕度をなされて きやはんに甲掛、四ツぢのわらぢを

しつかと はいてな東は飯岡と、銚子の端はてまで

西は東海道の五十よ三次、粉箱かついで

粉よし／＼と売らずばなるまい、おいとこそうだよ

// // // // // // // // // // // // // // //